一般社団法人
日本建築学会

建　築　文　化　週　間　2023

トウキョウ
建築まち歩き

丸の内から旧江戸城、九段まで

http://bunka.aij.or.jp/machiaruki/

丸の内から旧江戸城、九段まで

今回の「トウキョウ建築まち歩き」は、「東京駅丸の内駅前広場」をスタートに、旧江戸城の皇居東御苑と北の丸公園を巡り、九段から靖国神社「遊就館」前までを歩きます。

丸の内

広域の地形図を見ると、旧江戸城の場所は、西側から延びる洪積台地から出島のように東側の沖積低地に突き出ています。旧江戸城の外周は石垣や土塁が巡っていますが、そのほとんどがジグザグなのは、原地形の崖線や谷筋を利用して濠がつくられたからといわれます。

一方、他と違って直線になのが、現在の皇居外苑部分の内濠。この場所は、もとは海（日比谷入江）であり、それを1606（慶長11）年～07（慶長12）年頃に埋め立て、埋め残した部分を、水路、そして濠の一部（和田倉濠、馬場先濠、日比谷濠）として利用したのです。旧平川は、すでに太田道灌の時代に日本橋川に注ぐようにつけ替えられたといわれ、その水は埋め立てとともに東側に掘られた外濠（現在は埋められ東京駅東側の「外堀通り」の位置にあった）に流されていました（その後平川と小石川はさらにつけ替えられて神田川に流されます）。現在の丸の内はその外濠と内濠の間の部分で、江戸時代には江戸城を囲む武家地として、大名小路の東西に大名屋敷が建ち並んでいました。

丸の内オフィス街の成立

明治維新後は陸軍の諸施設が置かれていましたが、民間に払い下げられることになり、岩崎彌之助が率いる「三菱社」が、ここに大オフィス街の建設を計画。1894（明治27）年の「第一号館」（2010年「三菱一号館美術館」として復元）に始まり、1923（大正12）年の「丸の内ビルヂング」（通称「丸ビル」、2002年に建て替え）で一応の完成を見る丸の内オフィス街が出来上がります。

「東京駅丸の内駅前広場」に立って周囲の超構造ビルを見渡すと、低層部の同じ高さで軒が巡らされていることがわかります。これは1920（大正9）年の市街地建築物法（現在の建築基準法）によって軒高が最高100尺（31m）に制限されたことの名残りで、これによって丸の内は整然としたまちなみをつくってきました。そして、現在建っている超高層ビルも、その百尺制限をデザインとして取り込んでいるのです。

行幸通り

1914（大正3）年に開業した「東京駅」中央の皇室口から皇居に向かって建設されたのが幅員が約73mの行幸通り。ただこの時は内濠（日比谷通り）まででした。関東大震災後の帝都復興事業で1926（大正15）年に内堀通りまで延長され、皇紀2600年記念宮城外苑整備事業（1939/昭和14年～）等により現況の姿に整備されてきましたが、長らく中央部は開放されず、2010（平成22）年になって歩道兼馬車道として交通開放されました。2002（平成14）年から2012（平成24）年にかけて竣工した周囲を囲む超高層ビルと相俟って、首都東京の新しい顔が完成しました。

旧江戸城本丸・二の丸、三の丸、西の丸

大手門より、「皇居東御苑」（旧江戸城）に入ります。大手門は旧三の丸にあり、2023（令和5）年11月3日オープン予定の「三の丸尚蔵館」があります。隔てる堀が埋められている二の丸に登ると「百人番所」、中之門跡をくぐると「大番所」といった江戸時代の遺構があり、さらに坂を登ると台地の上に江戸城本丸跡の芝生広場にが広がります。

江戸城本丸は何度も焼失と再建を繰り返していますが、最後に焼失したのが1863年（文久3）で、その後再建されることはありませんでした。1864（元治元）年に西の丸につくられた仮御殿を本丸として使用していて、それが明治政府軍に明け渡されたわけです。

西の丸の御殿は1869（明治2）年に皇居となります。1888（明治21）年に同じく西の丸に「明治宮殿」が落成しますが、1945（昭和20）年に戦災による類焼で焼失。戦後になって、同じ西の丸に現在の「皇居宮殿」（1968/昭和43年）が建てられます。

本丸跡は、午砲台（ドン）が設置されたり、東京気象台が置かれたこともありましたが、その後は芝生の広場で、平成および令和の大嘗祭が行われました。

江戸城天守

江戸城では天守が3回つくられ、2回解体され最後に明暦の大火で焼失。現在、本丸後に残された天守台は、4度目の再建に向けてつくられましたが、上物の天守はつくられませんでした。

本丸休憩所の横の増築棟に江戸城天守復元模型が展示されています。これは、時代考証に基づく復元が可能な寛永期の天守が1/30スケールで制作されています。

北の丸公園

江戸時代には、田安徳川家、清水徳川家の屋敷が置かれていました。1874（明治7）年以降は、近衛師団が入営。1910（明治43）年には現存する「旧近衛師団司令部庁舎」が建てられました。戦後は宮内庁、法務省等が使用しましたが、1969（昭和44）年、昭和天皇の還暦を記念して国民公園として一般に開放されました。

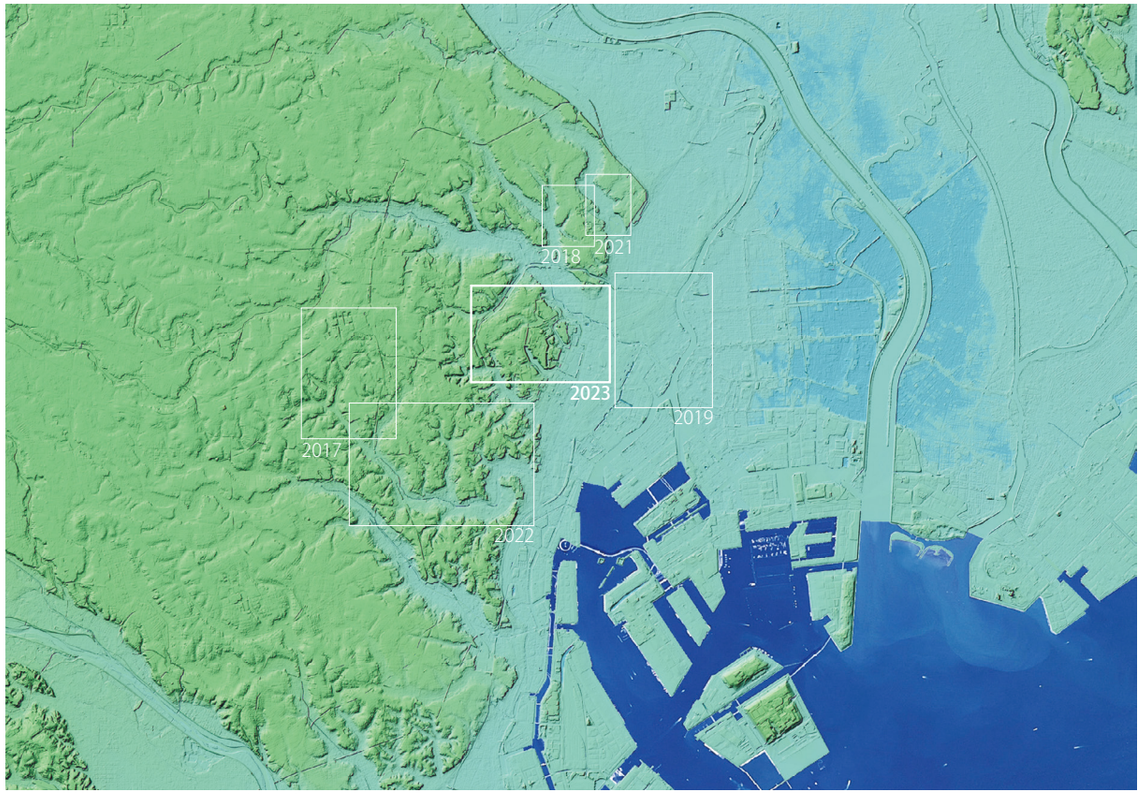
公園内では、1964（昭和39）年の東京オリンピックの柔道競技会場として建設され、現在はコンサート会場として有名な「日本武道館」があり、そこに至る門が1636（寛永13）年に建てられた「田安門」で、江戸城最古の遺構とされています。

田安門の東側の内濠が「牛ヶ淵」、西側が「千鳥ヶ淵」です。「濠」ではなく「淵」なのは、ダムで流れを堰き止めてつくられたからで、水の確保のため、徳川家康が江戸入りしてすぐに手掛けたものでした。

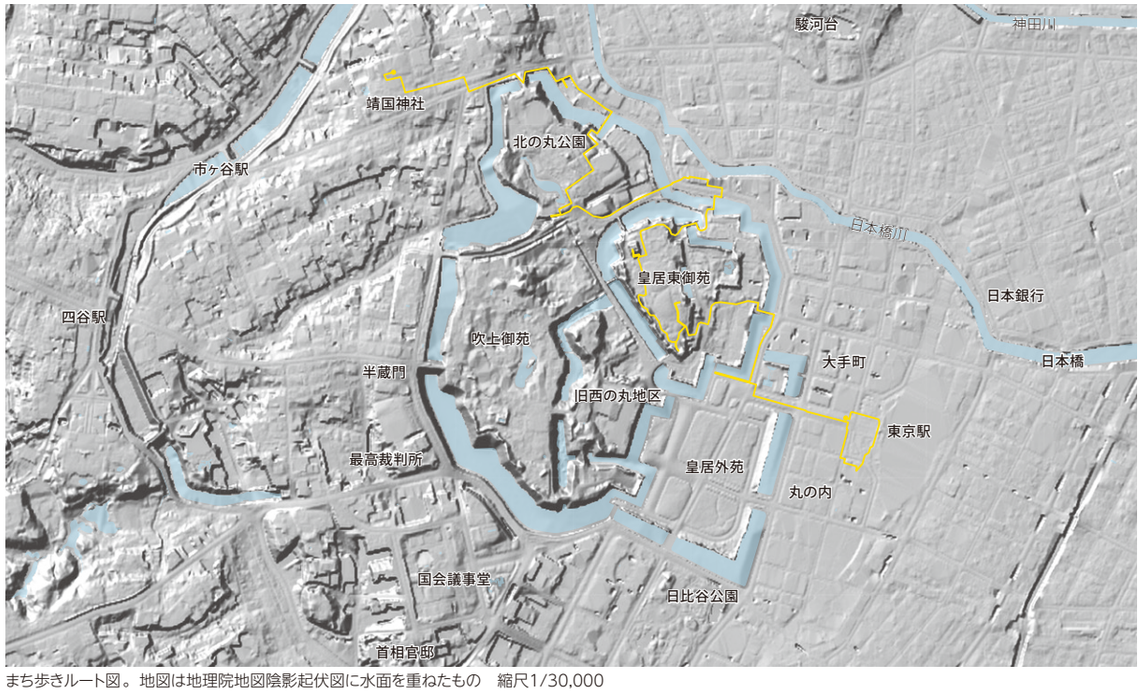
九段

北の丸公園を清水門から出て、九段下へ。「九段会館テラス」は、1934（昭和9）年に「軍人会館」として建てられ、戦後GHQの接収解除の後、「九段会館」として運用されていました。2011（平成23）年の東日本大震災で、1階大ホールの天井が崩落、2人の死亡者と、31人の重軽傷者を出す大惨事となりました。2022（令和4）年に、内堀通りに面する東側とホール正面玄関の北側を保存し、その背後のホール等を解体してオフィスタワーを新築しています。北西側の屋上庭園に上がると、牛ヶ淵越しに「日本武道館」の屋根がよく見えます。

靖国神社の「遊就館」は、関東大震災で倒壊したものの建て替えで1931（昭和6）に竣工しました。隣接する「靖国会館」（1934/昭和9年）とともに、「軍人会館」と同じく日本風の屋根を載せた建築で、この時期の建築の特徴のひとつとなっています。



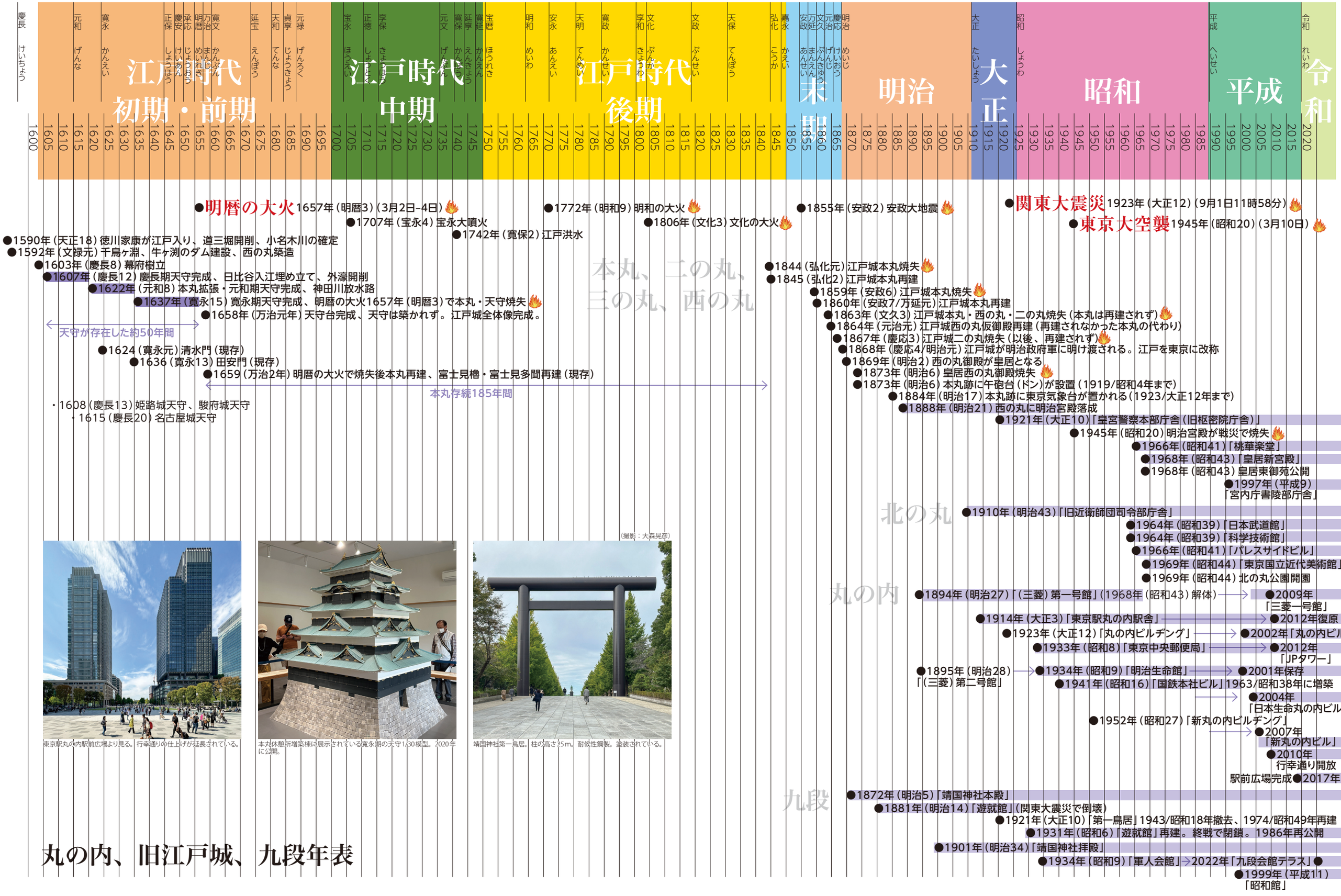
国土地理院 地理院地図アナグリフ(カラー)



まち歩きルート図。地図は地理院地図陰影起伏図に水面を重ねたもの　縮尺1/30,000



北の丸地区
皇居東御苑
吹上御苑
旧西の丸地区
皇居外苑地区
靖国会館
遊就館
1931年｜設計顧問：伊東忠太
靖国神社
（本殿：1872年、拝殿：1901年
伊藤平左衛門）
第一鳥居（1974年）
第二鳥居（1887年）
昭和館（1999年｜菊竹清訓）
九段会館テラス
（旧九段会館・旧軍人会館
（1934年｜川元良一、2022年｜鹿島建設）
田安門
（1636年）
日本武道館
（1964年｜山田守）
清水門
（1658年再建）
科学技術館（1964年）
東京国立近代美術館
（1969年｜谷口吉郎）
パレスサイドビル
（1966年｜林昌二）
国立公文書館（1971年）
千鳥ヶ淵戦没者墓苑
（1959年｜谷口吉郎）
旧近衛師団司令部庁舎
（東京国立近代美術館分室）
（1910年｜田村鎮、1973年改修｜谷口吉郎）
宮内庁書陵部庁舎
（1997年｜戸尾任宏）
桃華楽堂（1966年｜今井兼次）
英国大使館（1930年）
吹上大宮御所
（1961年）
皇居御所
（1993年｜内井昭蔵）
皇宮警察本部（旧枢密院庁舎）
（1921年｜矢橋賢吉）
富士見櫓
（1659年）
宮内庁庁舎
（1935年）
カトリック麹町 聖イグナチオ教会
（1999年｜坂田誠造）
ワコール麹町ビル
（1984年｜黒川紀章）
国立劇場
（1966年｜岩本博行
2023年閉館、2029年改築予定）
皇居宮殿
（1968年｜吉村順三）
元衛城和田倉門守衛所（1923年）
ザ・メイン ホテルニューオータニ
（1964年｜観光企画設計社）
迎賓館和風別館「游心亭」
（1974年｜谷口吉郎）
ホテルニューオータニ
ガーデンタワー
（1974年｜大成建設）
赤坂プリンス クラシックハウス（旧李王家東京邸）
（1930年｜宮内省内匠寮）
最高裁判所
（1974年｜岡田新一）
国立国会図書館新館
（1986年｜前川建築設計事務所）
国立国会図書館本館
（1968年｜前川國男）
参議院議長公邸
（1961年｜岸田日出刀）
衆議院議長公邸
（2001年｜内井昭蔵）
憲政記念館
1958年｜海老原一郎
2027年に国立公文書館と
共に改築予定｜日建設計
警視庁本部庁舎
（1980年｜岡田新一）
国会議事堂
（1936年）
法務省旧本館
（1895年｜エンデ&ベックマン、河合浩蔵）
第一生命館/DNタワー21
（1938年｜渡辺仁/
1995年｜清水建設、K.ローチ）
明治生命館
（1934年｜岡田信一郎）
三菱一号館美術館
東京国際フォーラム
（1997年｜ラファエル・ヴィニオリ）
東京駅丸の内駅舎
JPタワー
丸の内ビル
新丸の内ビル
日本生命丸の内ビル
日本工業倶楽部
グラントウキョウ ノースタワー
グラントウキョウ サウスタワー
グランルーフ
パシフィックセンチュリープレイス丸の内
新永間市街線高架橋
1/10000
200 m



(撮影：大森晃彦)

東京駅丸の内駅前広場より見る。行幸通りの仕上げが延長されている。

本丸休憩所増築棟に展示されている寛永期の天守1/30模型。2020年に公開。

靖国神社第一鳥居。柱の高さ25m。耐候性鋼製。塗装されている。

丸の内、旧江戸城、九段年表

——

ナビゲーター：大森 晃彦（日本建築学会建築文化事業委員会委員、建築メディア研究所代表、東京理科大学非常勤講師）

——

発行　日本建築学会 建築文化事業委員会
発行日　2023 年 10 月 28 日
©日本建築学会 建築文化事業委員会 2023
不許複製

——

建築文化週間 2023
主催　日本建築学会
後援　日本建設業連合会、日本建築家協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会
協賛　大林組、鹿島、清水建設、大成建設、竹中工務店、梓設計、久米設計、佐藤総合計画、東京メトロ、日建設計、日新工業、
日本設計、三菱地所設計、山下設計、NTTファシリティーズ